

# 授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ



平成30年10月30日(火)  
西部教育事務所

10月30日(火)に入野小学校において、授業研究会が行われました。前回の教材研究会での学びから単元全体をデザインし直し、『教室の広さ比べ』を新聞紙や畳を使って実際に敷き詰めながら広さを体感させるなどの工夫を行いました。これまでにないダイナミックな面積の学習展開となり、参観者の方々にとっても、大変提案性のあるものであったと思います。



## 今回の授業

黒潮町立入野小学校 4年「広さを調べよう」 堀教諭

単元の導入で実際に新聞紙や畳を敷き詰めさせ、広さ比べを行ったことで、本時において数値化することのよさや普遍単位の必要性を実感させることができていた。本時は、調理室に畳や新聞紙を並べることをしないで、何枚の新聞紙や畳が敷き詰められるかがわかる方法を考えさせる場面であった。畳や新聞紙を使っても数値化して広さを比べることはできるが、畳や新聞紙を1つ分にすると、いくつ分を求めるときにわり算をしなくてはならないので、単位となる一辺が1mの正方形の面積を用いると測定した長さをそのまま使えて便利であるということに気付かせることができた授業であった。



## 授業者の声

単元の導入において、畳、新聞紙を使って敷き詰めを行ったことで、児童が敷き詰めることの大変さや苦労を実感することができました。この経験が本時の授業においても生かされ、実感を伴った授業展開を仕組むことができ、1mの必要性に気付かせることができたのではないかと思います。

今後は、児童の発言を板書に残し可視化していくことで、視覚的にも理解できるようにして、児童の理解を深めていきたいと思っています。



## 参会者の声

活動を通して、広さを実感させることや測る大変さを実感し、広さを表す単位の有用性に気付かせていくことが、とても大切だと学びました。こんな風に学びのプロセスを考えていくことが必要なのだと感じました。また、可視化していくことの大切さについても学びました。

(黒潮町外 A教諭)

## 参会者の声

今回の授業は、堀先生の授業に対する姿勢や教材研究がよく表れていたと思います。また、入野小学校の先生方のバックアップもよく分かりました。ゴールイメージがしっかり持っていたからこそ、質の向上に繋がっていたのだと思います。

(黒潮町内 B教諭)



齋藤先生からは、以下のような指導（一部抜粋）をしていただきました。

### (1) 知識の質を問う

#### ◎「内容の理解の質を問う」

- ・面積の単位について知るということは、どういうことなのかを理解しておく必要がある。つまり、「一辺の長さが1mの正方形の面積を用いると便利である」ということを理解させることである。

### (2) 見方・考え方を磨く

#### ◎何に眼をつけるか？

- ①まずは子どもたちに眼を向けさせたいことは、教室の形状（長方形）についてである。4年生の学習指導要領に正方形や長方形についてとあるように、その形の面積について特化して学習していく。
- ②次に眼を向けさせたいことは敷き詰め方である。縦と横にきれいに敷き詰めしていくことによって、総数の求め方として重要なポイントである乗法が使える事に気付かせていくことが大切である。他の形でも敷き詰めようと思えば敷き詰められる形もあるが、非常に難しくなってしまう。長方形であった方が簡単に並べることができ、規則正しく並べることができるからこそ、乗法を使うことができる。

### (3) 単元を描く

- ①どちらが広い?・・・比較するために新聞紙や畳を使う。
- ②どれだけ広い?・・・数値化して表す。
- ③なるべく手際よく表現できないか?・・・普遍単位の必要性について気付かせる。
- ④いつでも可能か?・・・端の単位について類推する。

## 「1月の学び場」のお知らせ

1月10日(木) 大方中授業研究会(PM)

1月11日(金) 清水小授業研究会(PM)